横浜市立末吉小学校
学校だより
令和２年度
２月号

「前向き」に「今」を豊かに

副校長　　菅野　範子

１１月３０日の朝会で、子どもたちにこのような話をしました。
「みなさんに１まいの絵を見せます。コップにジュースが半分入っている絵です。
このジュースを見てどう思いますか？
『もう半分しかない。』
でもこういうふうにも思えますよね。
『まだ半分もある。』
１つのことでも、見方や考え方を前向きに変えることで、気持ちが楽になることを知ってもらいたいなあ、と思います…。」

この日のテーマは、「前向き」でした。話はこの後、短所も前向きな見方・考え方で見れば長所としてとらえられること、前向きにあきらめずに頑張ったお友達の話、そして、前向きになれない時には周りに頼って助けてもらっていいんだよ、と続きます。

この１年間、予期せぬ状況が私たちの生活を取り巻き、当たり前のことができない不便さ、苦しさを感じることが多い毎日です。学校生活でも感染防止のために活動に制限があり、行事も残念ながら中止や延期を余儀なくされる中、前向きな気持ちをもつことが難しくなっているのではないかと思い、ぜひ子どもたちに明るく過ごしてほしいという願いを込めて話をしました。

あれからさらに２ヶ月が過ぎ、さらに状況は厳しい中での学校生活…。しかし、子どもたちの顔にはマスク越しの笑顔！休み時間の校庭で元気に遊ぶ姿！廊下を行き交う控えめなおしゃべりの声！私が思う以上に子どもたちはいきいきと「今」を精一杯過ごしていることが伝わってきます。カラフルなマスクの柄や（某アニメキャラにちなんだ模様も人気）教室での遊び方（校庭が密になるのを防ぐために外遊びの交代制は続いています）、各クラスでは教師が感染防止策を取り入れながらの授業など、あらゆるところで生活を豊かにする知恵と工夫を感じることができます。そして、「今」できる工夫を考える、つくり出す、実行する源となるのは、「前向き」な気持ちなのだと思います。前を向いているからこそ、その先にある未来に目を向け、期待や楽しみな気持ちをもって進むことができるのです。

しかし、朝会の話の終末でも語ったように、前向きになれない現実も確かにあります。ある教室からは、「でもさあ、ずっと前向きでいるもの疲れるよね…。」という子どものつぶやき。よくわかります。素直な反応です。ましてや、この現状です。前を向いてどこの未来を見つめればいいのか…。子どもが「前向き」になれず、「後ろを向いて」しまったとき、その後ろを向いた先には身近な大人がともにいて、あたたかく包み込み、やさしく励まし、気持ちに寄り添っていけたらと思います。そして、安心感をもって再び前を向いたときに、そっと背中を押してあげられるように。

今年度も残り２ヶ月となりました。これまでと同様に、学校・家庭・地域でともに子どもたちの育ちを支え、末吉の子が毎日を「前向き」に歩めるようにと願っています。